

暗唱聖句 「では、尋ねよう。神は御自分の民を退けられたのであろうか。
決してそうではない。わたしもイスラエル人で、アブラハムの子孫であり、
ベニヤミン族の者です」 ローマ 11 : 1

今週の聖句 ローマ 10, 11 章

今週の研究：ローマ 10 章と 11 章は多くの議論の焦点となっているところです。しかしながら、これらを通して明らかになる点があります。それは、人類に対する神の愛と、すべての人を救おうとする神の大いなる願望です。だれもある集団に属しているという理由で救いから締め出されることはありません。

パウロは選びと召しについて語るとき、問題は救いではなく、神の宣教計画における役割にあることを理解する必要があります。

日曜日：律法主義はさまざまなかたちで侵入してきます。あるものは他のものよりも巧妙です。自分自身や自分の善行、食事にばかり心を向けたり、厳格に安息日を守ることや、自分の行わなかったあらゆる悪事、あるいは善意をもってなされた自分の業績ばかりに心を向ける人は律法主義のわなに陥っています。

私たちは時々、自分の罪深さではなく、神の聖潔さに目を向けねばなりません。これが、キリストの義ではなく、「自分の義」を求めようとする生き方から自分自身を守る最も確かな道です。

火曜日：聖書は、「いちど救われたら、つねに救われている」とは教えていません。救いは随時に与えられますが、それはまた随時に取り去られるものです。私たちは、墮落するたびに救いから締め出させる、あるいは完全ではなく限り救われていない、と考えることについて注意深くなければなりません。

反対に、ひとたび神の恵みが私たちを覆えば、私たちに選択の余地はない、と考えることも避けねばなりません。結局のところ、「神の慈しみにとどまる」人たちが救われます。(22 節)

私たちは自分の善行を誇ったり、仲間よりもすぐれていると考えたりしてはなりません。私たちの救いは自分で獲得したものではなく、賜物なのです。十字架の前で、神の聖潔という標準の前で、私たちはみな同等です。私たちのうちに誇るべきものは何一つありません。

木曜日：ユダヤ人と異邦人が対比されてはいますが、全体を通して一つの点が明らかにされています。――神の憐れみと愛、恵みが罪人に注がれています。神は世界を創造する以前から、人類を救い人間や民族を御自分の器として用いてみ心を実現する計画をお立てになりました。

もしキリスト教会が過去において、ユダヤ人をもっと好意的に扱っていたなら、もっと多くのユダヤ人がメシアを知っていたはずですが。キリスト後の初期の時代に排斥したこと、またキリスト教が――日

曜日を受け入れるために第七日安息日を拒否したことを含めて――極端に異教化したことなどは、明らかにユダヤ人がイエスのもとに来るのを困難にしたはずです。

とするなら、すべてのクリスチャンがイエスによって与えられている憐れみを認めて、その憐れみを他の人々にも表す必要があります。そうしないなら、私たちはクリスチャンとは言えません。(マタイ18:23~36参照)

先週、どのような理由であれ、わたしたちが神さまによって選ばれていることは、すばらしいことで、そのことを考えると感謝にたえないと書きました。

今週は神さまの選びや召しについて教課で学びます。選ばれることは名誉なことです。また特別なことでしょう。

けれども神さまは、なぜわたしたちを選んでくださったのでしょうか。コリント第一1:26~30に、はっきりと書かれています。

神さまは強い、美しいものを選ばれるのではなく、弱く、劣っているものを選ばれます。なぜでしょう。

もし強いものが、ますます強くなっても、それはその人が積み重ねで獲得されたものと考えらるでしょう。しかし弱く貧しいものが、突如として、強くなったとしたら、まわりの人たちはそれが本人だけの力では無く、だれかの助けがあったと考えて、成功の事実を認めることができます。その人自身が喜びを知って、そしてあかしすることが一番の力なのです。この方法は昔からかわりませんでした。だからこそ神さまはこの方法を用いられているのです。

もう一つの理由としてコリント第一1:30には、それによって強いものや知者が謙遜になるためと書かれています。

神さまが最もおきらいになることは高慢です。高ぶっていると、その人はまわりのことから学ぼうとしません。自分がしていることが最高なので、助けを求めることはありません。

けれども、もっと大きな力に気づくと、目が覚めると、自らが誇り高ぶっていることがいかに無意味なことが気づかされ、頼るべきものに頼るようになるのです。

神さまが弱いものを選ばれる理由は、その本人が、まわりのものたちが、そして強い者が、自らの意思で神さまを選ぶように導くためです。その目的のためにわたしたちが選ばれているのです。